

ほっかいどうの社会保障

2015年11月12日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

よりよい医療のために、診療報酬の大幅増と改善を 中医協委員へ要請行動 北海道医労連



2016年4月からの診療報酬改定の議論が行われています。北海道医労連は、日本医労連の方針を受けて、中央社会保障医療協議会（中医協）の委員あてに、「診療報酬の大幅改善を求めます」と要請行動を行っています。

社会保障費の大幅削減や2016年度診療報酬のマイナス改定の大合唱が始まっています。来年度予算の概算要求策定に向けて財務省が圧力を強めています。今でも地域医療の崩壊寸前です。医療機関の赤字も増えています。安全・安心の医療を確立するための診療報酬の大幅改善が必要です。

| 診療報酬改定スケジュール | |
|-------------------|-------------|
| 社会保障審議会（医療保険部会など） | |
| 11月下旬～12月初旬 | 基本方針策定 |
| 内閣 | |
| 12月下旬 | 予算編成で改定率決定 |
| 厚労大臣⇄中医協 | |
| 1月中旬 | 諮問を受け中医協で答申 |
| 3月上旬 | 告示・通知の発出 |

要望項目や「私たちの職場の声」から

- 医師・看護師・介護職員などを大幅に増員し、安全でゆきとどいた医療・看護・介護を保障し、医療・介護・福祉労働者の社会的役割にふさわしい賃金水準、夜勤や長時間労働の改善を実現するため、診療報酬を抜本的に改善すること
- 包括・定額支払い制と保険外併用療養費を拡大しないこと。慢性期病床に対する報酬の引き上げを行うこと。入院日数等による人員配置と報酬点数の差別的評価をやめること。
- 入院日数の短縮、ベッド削減、機能分化など、診療報酬の経済的誘導を使った医療提供体制の再編・縮小をやめること。

- 休憩時間取れず走り回って仕事をしています。
- 医療の現場は命を守る現場です。欠員が続くと職員の健康も守れなく、患者さんの命を守れなくなります。
- 低賃金・過酷な労働で離職、退職が社会問題です。人員不足で十分な医療が提供できませんか
- 診療報酬を大幅に改善しないと、病院の経営が成り立たなくなる

政府・財務省・厚生省・国会議員にも、実態を訴え、要請をしましょう。

北見 国保料引き下げ署名 8216人分を 市に提出



11月2日、北見市の国保をよくする会は、北見市長に「国民健康保険制度の改善を求める」請願署名8216人分を北見市に提出しました。同会は、2013年に発足し、毎年署名活動など進めてきました。議会では可決されませんでした。2015年度の保険料は下がりました。

同会の佐々木代表は「今年の国保料引き下げで多くの市民が喜んでいますが、まだまだ収入や生活実態と比べて高い保険料です。引き続き下げてほしい」と要請しました。また「北見市が発行している資格証明書が、滞納世帯の1/4の約600世帯で、道内でも際立っています。病気療養中の方に資格証を発行した事例もありました。低所得者減免で、資格証を出さない努力をされていてしているところもあります。北見市でも保険料を引き下げ、減免制度と資格証明書の発行基準などを見直してほしい」と改善を求めました。

対応した副市長は、国保は低所得者が多いなど構造的な問題を抱えています。運営の安定化のために、国で公費を投入し、今年度保険料の引き下げを行い、法定減免基準の拡充を行った。平成30年（2018年）からは都道府県も予定されており、制度の内容について協議しているところだと回答し、資格証明書については「療養できない事はあってはならない。個別の事業を判断して資格証をみだりに発行しないようにしている」と答えました。